

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

2022年度通常総会 補足資料

■ 通常総会タイムテーブル（あくまでも目安です。状況により変更となります）

時刻	時間	内容
14:30～14:50	20分	定足数確認、開会、議長・議事録署名人選出、趣旨説明、役員紹介
14:50～15:20	30分	第一号議案 2021年度事業報告並びに決算及び監査報告について
15:20～16:05	45分	第二号議案 2022年度事業計画並びに予算について
16:05～16:15	10分	第三号議案 2022年度役員の選任について
16:15～17:00	45分	その他報告、質疑応答・意見交換、閉会

■ 「総会議事資料に関する意見交換会」ご報告（Q&A集）

全国3地区およびオンライン2回の計5回開催した「総会議事資料に関する意見交換会」での質疑応答を以下の通りまとめました。

1. ミッション、ビジョン、その他活動全般について

1) 事業計画の数値目標は立てないのですか？

→各事業の計画の詳細については、総会資料21～22ページに記載しており、それをもとに予算を立てています。

2) 定例会などについてリアルに戻そうとしているようにみえるが、オンラインの今後の展開は？

→全てを対面に戻すことは考えていません。コロナ禍での活動の中でオンラインの活用が進んだことにより、今後は対面・オンライン・ハイブリッドなど各拠点で最適なものを選択できるようになっていけると思っています。また、各拠点同士のコラボレーションなど、オンラインによって実現できる新たな企画なども今後も進めてもらいたいと考えています。

3) 会員数が減少していることについてどのような解釈を持っていますか？今後どのように考えていますか。また、会員数の目標値はありますか？

→ここ数年、ファシリテーションに関わる団体が増えてきていますが、その中でファシリテーションに関心がある人達の受け皿としてのFAJが、今後どのような組織であろうとするのかについて、理事会としても今年度の重要な検討事項と考えています。

また会員数の減少については、これまで入会3年以内の方が退会するのが多かったのですが、最近では10年近く在籍してた会員の退会も目立ってきていると認識しています。

4) 会員の継続率は出ていますか？

→毎年の会員の継続率は把握しています。また入会年度ごとの継続、退会状況も把握しています。

5) 個人情報保護の内部規程がないのではないか？2020年の法改正に対応できていますか？

→個人情報保護規程は制定済みです。ただ2020年の法改正に対応できない部分があることが質問を受けて確認しましたので、できるだけ早く対応したいと考えています。

6) 理事会議事録が3月配信、12月理事会分で止まっています。なぜ？誰かの作業が遅れているのかもしれないが、ここまで遅れているのを理事会として容認しているのは法人の体をしていないのではないでしょうか。

→ご意見、賜りました。少しでも早く会員にお知らせする必要があることを痛感しております。理事会からの働きかけが十分ではなかったことも認識しており、今後の協会運営強化策の一環として取り組んでいきます。

2. 調査・研究事業について

7) 定例会の参加人数および会員数について経年変化を教えてください。

	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
会員数（年度末時点）	1,690 人	1,613 人	1,532 人	1,356 人	1,219 人
定例会参加者数	3,410 人	2,892 人	2,794 人	3,309 人	2,355 人

8) 年度ごとに個人の参加回数の集計はありますか？

→個人の参加回数の集計はありません。

9) 定例会の参加者数は延人数か実人数のどちらですか？

→延人数です。

10) 定例会のスタイルで、計画上の対面・オンライン・ハイブリッドの割合想定はありますか？

→理事会としての割合想定はありません。定例会の形式については支部で想定され予算に反映されています。

11) 調査研究事業費における会場費は本当に妥当な金額ですか？例えば東京支部では以下の金額が計上されていますが… 2022 年度（予算）950,000 2021 年度（実績）112,190

→今年度もコロナ禍が続いたとしても、対面活動の推進やハイブリッド開催への挑戦などを行っていく予算としており、会場費もそのような考え方で計上しています。

12) 2022 年度 サミットの交通宿泊費 120,000 謝礼等 300,000 支払い先はどこですか？

→FAJ 外の基調講演者や招聘したワークショップ実演者に支払います。

13) サミットは全国イベントで、各拠点からあまねく実行委員を呼び込んでいます。開催地への実行委員の交通費は出せませんか？出せる方向で考えていただけませんか？

→現状の規程では出せません。

3. 教育・普及事業について

14) “講師トライアルの要件を緩和し、公開セミナー委員、アソシエイツ以外の方に対して門戸を開き、実際にアソシエイツ以外の方の挑戦がありました。”とあるが何人挑戦しましたか？

→3 名の方が挑戦され内 1 名がアソシエイツ以外の方でした。

15) “FAJ ならではのフェローが持つ優れたファシリテーションの知見を活かすことで、教育・普及事業の軸である基礎講座のコンテンツをより効果的に伝えていくための「特別講座」の開催を検討します。今年度はパイロットを開催し、来年度の本格実施を目指します。”とあるがフェローが所属組織などで開催している講座との違いはなんですか？

→企画の趣旨に賛同したフェローに自身の持つファシリテーションに関する優れた知見を FAJ 主催の公開講座として提供いただくもので、講座内容は既存の基礎講座の内容と相反しない限りフェローに一任する想定です。普段開催している講座と近い内容になる場合もあると考えています。なお、フェローの知見を活かし、新鮮かつ魅力的な講座（コンテンツ）をスピーディに提供し、新たな層へのファシリテーション普及、FAJ の認知度向上を図ることをねらいとしています。

4. 支援・助言事業について

16) 2021 年度 災害復興 収入 319,000 支出 2,168,838 うち謝礼 1,326,841 はだれがどんな名目で受け取っていますか？

→支援活動に入ったコーディネーター、サポートナーに規定に準じて謝礼として支払っています。

- 17) 資料4ページ2019年台風19号の支援活動において中央共同募金会より1,090千円の助成を受けました。とあるが、本予算が決算報告書・計画書内に見つかりません。
→内容を確認した結果、誤記であることが判明しました。卷末の正誤表にて示します。

5. 交流・親睦事業について

- 18) P9 7/23 グローバルは中止ではないでしょうか?
→ご指摘の通り中止でした。卷末の正誤表にて示します。
- 19) “2025年に開催される「大阪・関西万博」の共創パートナーに登録しました。TEAM EXPOオンラインブレスト交流会の開催に協力しました。”FAJにおけるメリットは何ですか?
→TEAM EXPO 2025 共創パートナーは、大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」を実現する共創チャレンジ活動を生み出し、支援する役割となります。FAJはこのような活動にファシリテーションを通じて支援することで、ミッションである「多様な人々が協働しあう自律分散型社会の発展」に寄与できると考えています。
- 20) 交流・親睦事業支出における外部委託料の使用用途を教えてください
→支部イベントの集客やチケット販売にて外部システムを利用して行う場合の費用を想定しています。

6. 組織運営に関わる活動について

- 21) デジタル化の網羅的な関わりとは?また、どこまで相談に乗ってくれるのでしょうか?
→デジタル推進委員会としては、拠点のデジタル化の支援をできる限りサポートしたいと考えています。デジタル推進委員会のメンバーに問い合わせていただければよいし、もし問い合わせ先がわからなければ、窓口を紹介しますので、担当理事の本宮までご連絡下さい。
- 22) 20周年に向けて、どのような検討が進んでいますか。20周年準備経費が計上されていないのは何故ですか?20周年で何かをやることについてメッセージを出すべきではないでしょうか?
→20周年というのは大きな節目として意識はしています。各拠点や会員として「何かをしたい!」という動きについて、予算を含め支援していくことを検討しています。
- 23) 役員選挙改革を検討していますか?
→現時点では、選挙制度の改革は検討していません。しかし、現状の選挙制度に変更されてから7年が経過し、現状について把握し検討が必要と考えています。
- 24) 役員候補の選任経緯を教えてください。
→役員推薦選挙で推薦された中の上位3名を第一次役員候補者とし、第一次役員候補者が分野・地域・性別等のバランスを考慮して、第二次役員候補者を選定します。
その後、2月の理事会において役員候補者を決定します。
- 25) p17「■身の回りの～　会員一人ひとりがファシリテーション…想いに耳を傾け合う…」とあります。具体的なアクションプラン、手掛かりになることを教えてください。
→p19に記載している「協働促進プログラム」の活動がそのひとつにあたります。外部との協働、連携、新しいことが実行できることとして、現在仕組み、制度を作ろうとしています。
- 26) 理事への研修内容について教えて下さい。進める際には途中経過も教えてください。
→経営環境の変化に対応するために、外部専門家からの経営や組織運営に関する学習を検討しています。FAJが長年抱えている問題や課題に対し、理事会や会員が向き合えるよう支援するコンサルやファシリテーターのイメージです。とはいっても、外部コンサルがFAJを変えるのではなく、FAJ自らが変わるための支援を想定しています。途中経過は、理事会議事録などを通じてお知らせします。

27) そもそも、ファシリテーターズ・ターミナルとは何ですか？

→ ファシリテーターズ・ターミナルとは、多くの路線を束ねるターミナル駅のような役割を FAJ が果たしていくことを表現したもので、2020 年度の事業計画より、FAJ の目指すあり方として打ち出しています。

多様なファシリテーターが現場実践を行い FAJ に集まり、またそこから旅立つ。ファシリテーションをキーワードに集まつたファシリテーターが知見を合わせて集合知を生み出し、時につながってゆく。可能性を生み出すファシリテーターズ・ターミナルを目指していきましょう！

28) 「Why ステートメント」は、どこを見れば分かりますか？理事会議事録を確認しましたが見つかりません。

→ 「Why ステートメント」は、昨年度実施したビジョンワークの中で作ったものです。

現時点、公開という形は取っていませんが、今後計画しているビジョンワーク第 2 弾の中で活用し、ビジョンを紡いでいきますので、ぜひご参加いただければと思います。

29) ビジョンワークについて、会員にわかりやすく情報開示できませんか？

→ ご意見、ありがとうございます。昨年度は全 5 回、延べ 87 名が参加し「Why ステートメント」を作るビジョンワーク第 1 弹を実施しました。ワーク実施にあたり、全国 ML や SNS などで発信していましたが、今年度の活動にあたっても、更に発信していきたいと思います。

30) “会員数、事業収入が減少した場合の、活動の継続可能性について議論を行いました。その結果、新たな資金調達方法ではなく、収支構造を検討する必要があるという結論に至りました。”とあるが、結論やレポートは参照できますか？

→ 会員数の減少傾向を踏まえ、会費収入、活動費用の減少状況などを試算し議論し結論に至りましたが、レポートとしてはまとめてはおりません。

31) 各拠点に留まらず会員が活動しやすい環境の促進を目指し、Summer School を実施しました。とあるが、Summer School とはなんですか？

→ 2021 年 8 月に行った、山中司教授、白松俊教授をお招きして学術的な視点から学ぶ、ファシリテーターのマインドを考えるイベントのことです。

32) 理事会の人数比については妥当でしょうか？受益者数に基づくと、11 人の理事の比率は北海道 0.80 東北 0.76 東京 3.48 中部 2.25 関西 2.02 中国 0.85 九州 0.83 と算出しました。北海道 2 名、関西 4 名の理事は多いと思いますがいかがでしょうか？

→ 理事の選出は地域バランスも考慮には入れていますが、地域だけが取るべきバランスとは捉えていません。多様なメンバーを選定する 1 つの指標です。

役員候補の選任経緯については 24) をご覧ください。

33) 「新しいファシリテーション」ってどういうこと（意味）ですか？

→ FAJ は、19 年目の組織です。歴史ができれば、どうしても前提に囚われることもあります。コロナ禍でコミュニケーションが多様化している中で、今までのファシリテーションにとらわれず、今までの新しさ以上に大きく前提をひっくりかえすようなファシリテーションも生まれる可能性があるのではないかでしょうか。新しいファシリテーションとは？未来のファシリテーションとは？と対話していきませんか。

7. 決算、予算について

34) 2022 年度予算が約△12,000 千円となっています。このままの運用であれば 4 年したら使い切るのではないでしょうか。いつまでに収支を合わせるのでしょうか？

→ オンラインでの開催などで支出が低減している状況にはありますが、赤字の 12,000 千円は、対面開催などで会場費など支出が増える部分や、会員収入があまり伸びないことなど、収支が最も厳しい状況になることを想定した結果です。

このままの運用を続けるとしたわけではなく、コロナ禍の状況など環境の変化をとらえながら考えていくことになります。

- 35) 事務局業務については外注化を進めましたが、システム関連も外注するなど積極的に予算を使う予定はありますか？
→ システム関連も外注をしている部分はあり、協会の持続的な組織運営の必要性に応じて外注していきます。
- 36) p23 支払手数料 E-B使用料5万(2.5万×2)とは何ですか？
→ 会費徴収のための手数料です。2.5万×2とは、コンビニ払いと、指定口座振り込みの2つの方法があり、そのことを表現しています。
- 37) 事務局 交通宿泊費 4,500,000となっていますが、妥当な金額ですか？外部委託料 役員研修60万役員というのは、理事ですか？
→ 今年度は理事会を極力各支部にて実施し、理事と会員との交流を深めることを考えていますので、昨年度と比べて高額の交通宿泊費としています。役員とは、理事と監事を指します。
- 38) 繰越収支差額の適切な規模はいくらと考えていますか？
→ 具体的な金額を算出してはいませんが、現時点は不測の事態が起き無収入になつても、活動を維持できるという認識です。

8. その他

意見交換会の中で、以下のようなご意見をいただきましたので、ご紹介いたします。

- 年会費は7,000円ぐらいでもよいのではないかと思うか？
- 全国イベント実行委員会とデジタル推進委員会って、突然出てきている委員会のように見えますが、ちゃんと説明をしていただけるとありがたいです。
- 定例会が FAJ の活動の柱だととらえている人は多いと思います。『■身の回りの「分断」や「孤立」に埋もれた声を拾い、一歩踏み込んだ対話から未来を生み出そう。■現場実践のストーリーを社会に発信し、多様な持ち味を活かすことで繋がり合おう。』ということを言うのであれば、調査・研究事業を柱と捉えるのではなく、教育事業だったり、ファシサポ委員会を活性化したりということが必要だと思います。

■総会議事資料正誤表

誤	正
P4 6 ミッションおよび組織運営に関わる活動 1) 組織のあり方の検討（理事会、各拠点、事務局） ●理事会を各支部の定例会に併せて開催し、運営の現場との意見交換を実施しました。また、FAJ の原点及びこれからの FAJ に関する方向性を、2 回の拡大理事会の中で各拠点と議論しました。 の拡大理事会の中で各拠点と議論しました。 ●2019 年台風 19 号の支援活動において中央共同募金会より 1,090 千円の助成を受けました。	P4 6 ミッションおよび組織運営に関わる活動 1) 組織のあり方の検討（理事会、各拠点、事務局） ●FAJ の原点及びこれからの FAJ に関する方向性を、2 回の拡大理事会の中で各拠点と議論しました。
P9 7月23日 Global Facilitators' Virtual Cafe #23	P9 7月23日 Global Facilitators' Virtual Cafe #23(中止)
P10 2021年度「特定非営利活動に係る事業」活動計算書 ※6ページに差替を掲載	
P11 2021年度「特定非営利活動に係る事業」活動予算実績対比表 ※7ページに差替を掲載	
P21 東北支部定例会 会員 180 名、一般 60 名 年間 12 回	P21 東北支部定例会 会員 180 名、一般 60 名 年間 11 回

令和3年度「特定非営利活動に係る事業」活動計算書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

科 目	金額 (単位:円)		
(資金収支の部)			
I 経常収入の部			
1 会費・入会金収入			
個人会費	10,844,000		
法人会費	0	10,844,000	
2 事業収入			
調査・研究事業収入	142,384		
教育・普及事業収入	3,920,000		
支援・助言事業収入	3,019,850		
交流・親睦事業収入	951,092	8,033,326	
3 寄付金収入			
個人寄付金	0		
法人寄付金	0	0	
4 助成金			
経常収入合計	0	0	18,877,326
II 経常支出の部			
1 事業費			
調査・研究事業費	2,282,586		
教育・普及事業費	2,924,641		
支援・助言事業費	3,297,096		
交流・親睦事業費	299,311	8,803,634	
2 管理費			
広報費	105,600		
交通宿泊費	1,534,794		
謝礼等	77,023		
会議費	160,774		
事務消耗品費	148,329		
通信運搬費	158,234		
諸会費	61,100		
雑費	797,823		
資料印刷費	1,022,041		
外部委託料	840,031		
支払手数料	606,814		
賃借料	975,076		
保険料	36,338		
租税公課	193,700	6,717,677	
経常支出合計			15,521,311
経常収支差額			3,356,015
III その他資金収入の部			
その他資金収入合計	32,475	32,475	32,475
IV その他資金支出の部			
その他資金支出合計	0	0	0
当期収支差額			3,388,490
前期繰越収支差額			41,303,596
次期繰越収支差額			44,692,086

令和3年度「特定非営利活動に係る事業」活動予算実績対比表(参考)

※勘定科目の修正作業中のため、活動計算書と必ずしも一致するものではありません。

科 目	予 算	2021年度計	予算差異	予算比	決算内訳											
					事務局	北海道	東北	東京	中部	関西	中国	九州	サロン	その他	公開セミナー ファンサボ 災害復興	
(資金収支の部)																
経常収入の部																
会費・入会金収入																
個人会費	12,500,000	10,844,000	1,656,000	86.75%	10,844,000											
法人会費	200,000	0	200,000	0.00%												
事業収入	12,700,000	10,844,000	1,856,000	85.39%												
調査・研究事業収入	2,148,580	142,384	2,006,196	6.63%												
教育・普及事業収入	8,922,040	3,920,000	5,002,040	43.94%												
支援・助言事業収入	3,065,000	3,019,850	45,150	98.53%												
交流・親睦事業収入	2,068,500	951,092	1,117,408	45.98%												
寄付金収入	16,204,120	8,033,326	8,170,794	49.58%												
寄付金	0	0	0													
助成金等収入	0	0	0													
民間助成金	0	0	0													
当期収入合計	28,904,120	18,877,326	10,026,794	65.31%												
I 経常支出の部																
事業費																
調査・研究事業費																
会場使用料	3,661,800	859,332	2,802,468	23.47%												
事務消耗品費	649,000	39,474	609,526	6.08%												
交通宿泊費	2,910,000	277,280	2,632,720	9.53%												
謝礼等	1,828,000	909,439	918,561	49.75%												
印刷費	271,000	16,220	254,780	5.99%												
会議費	309,000	61,937	247,063	20.04%												
雑費	406,000	102,232	303,768	25.18%												
外部委託費	169,195	16,672	152,523	9.85%												
研究開発費	30,000	0	30,000	0.00%												
	10,233,995	2,282,586	7,951,409	22.30%												
教育・普及事業費																
会場使用料	1,900,000	884,816	1,015,184	46.57%												
事務消耗費	210,000	52,104	157,896	24.81%												
交通宿泊費	2,700,000	468,721	2,231,279	17.36%												
謝礼等	4,219,110	1,326,207	2,892,903	31.43%												
印刷費	454,000	90,298	363,702	19.89%												
会議費	213,000	56,443	156,557	26.50%												
雑費	110,000	46,052	63,948	41.87%												
研究開発費	9,806,110	2,924,641	6,881,469	29.82%												2,924,641
支援・助言事業費																
会場使用料	50,000	0	50,000	0.00%												
事務消耗費	32,000	8,287	23,713	25.90%												
交通宿泊費	2,240,000	922,289	1,317,711	41.17%												
謝礼等	1,965,000	2,262,712	-297,712													
印刷費	60,000	22,700	37,300	37.83%												
会議費	3,000	24,000	-21,000	800.00%												
雑費	184,000	57,108	126,892	31.04%												
	4,534,000	3,297,096	1,236,904	72.72%												
交流・親睦事業費																
会場使用料	1,095,000	14,960	1,080,040	1.37%												
事務消耗費	125,000	4,125	120,875	3.30%												
交通宿泊費	960,000	51,939	908,061	5.41%												
謝礼等	673,000	33,411	639,589	4.96%												
印刷費	164,000	580	163,420	0.35%												
会議費	103,000	2,000	101,000	1.94%												
雑費	459,770	153,976	305,794	33.49%												
外部委託料	110,275	38,320	71,955	34.75%												
	3,690,045	299,311	3,390,734	8.11%												
事業予備費	2,000,000	0														
事業費計	30,264,150	8,803,634	21,460,516	29.09%												
管理費																
広報費	420,000	105,600	314,400	25.14%												
交通宿泊費	3,270,000	1,534,794	1,735,206	46.94%												
謝礼等	77,023	-77,023														
会議費	650,000	160,774	489,226	24.73%												
事務消耗品費	50,000	148,329	-98,329	296.66%												
通信運搬費	301,000	158,234	142,766	52.57%												
諸会費	90,000	61,100	28,900	67.89%												
雑費	490,000	797,823	-307,823	162.82%												
資料印刷費	1,075,000	1,022,041	52,959	95.07%												
総会関係費用	700,000	0	700,000	0.00%												
外部委託料	2,661,500	840,031	1,821,469	31.56%												
支払手数料	500,000	606,814	-106,814	121.36%												
賃料費	980,000	975,076	4,924	99.50%												
租税公課	330,000	193,700	136,300	58.70%												
保険料	55,000	36,338	18,662	36.338												
予備費																
管理費計	11,572,500	6,717,677	4,854,823	58.05%	5,254,526	205,382	1,257,769									
当期支出合計	41,836,650	15,521,311	26,315,339	37.10%												
I その他資金収入の部																
その他資金収入合計																
その他資金支出合計																
当期収支差額	-12,932,530	3,388,490	-16,321,020	-26.2%												

